

新型コロナウイルス感

染症が感染症法上の5類に分類されて以降、展示会やイベント会場では人数制限が撤廃され、人流回復への対応が焦点となっている。これに伴い、現場でのIT活用は、3密対策から売り上げ拡大に向けた取り組みへとシフトしてきた。アステリアはこうした変化を踏まえ、コロナ禍で培った可視化のノウハウを生かし、イベント会場の効率的な運用や売り場デザインの見直しに力を注ぐ。

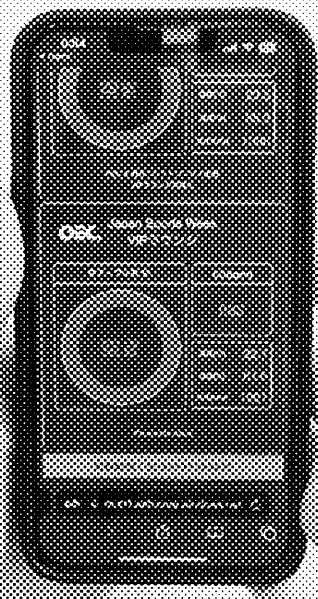
3密対策では二酸化炭素(CO2)センサーなターネット) 基盤「Gr

アステリア

ニューノーマルで輝く 88

ラウンジ混雑即把握

avio(グラフィオ)だ。その一環としてグラフィオをベースに、各種センサーから上がってくる現場データを統合管理し、多革(DX)の提案にどう生かすかがカギとなる。で「VIPラウンジ利用状況可視化システム」を開発。6月に東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催された「自治体・公共Wee k」と「Japan Sports Wee k」の両イベントで、同システムの効果を実証



スマートフォンで展示会場のラウンジの混雑状況を確認できる

可視化技術で収益拡大

VIPラウンジは気軽に使える休憩スペース。そこに電源不要の気感センサーや、温湿度・大気圧センサー、CO2センサーなど計64個を配備し、混雑状況をリアルタイムで可視化した。両イベントは3日間で約4万5000人が来場。休憩室の利用状況を可視化することで「各自のスマートフォンや、展示エリアに設置したサイネージ(電子看板)で混雑状況が把握でき、利便性が高まった」(アステリアの垂見智真グループバールGravio事業部長)。休憩室の効率的な運用についてはイベント会場だけでなく「病院や介護施設などでも引き合いが増えている」(同)という。グラフィオはデータ活用を担う基盤ソフトウェアやデータを収集するハードウェア、クラウドまですべてを網羅。プログラムが不要のノーコード開発や、やりたいことが現場の人でも設定できる直感的な操作性に加工できる。アステリアは、社外の多様なサービスとの接続にも柔軟に対応できる。アステリアは製造現場や施設、建物管理向けなど幅広い用途でDX提案を積極化する方針だ。(編集委員・斉藤実)(火曜日に掲載)